

13. 住居の被害

地震と津波により多くの建物が被害を受け、住家の76.6%が何らかの損害を受けた。地震の揺れは、建物に大きな被害を及ぼす周期の揺れがそれほど強くなかったため、全壊および半壊の被害は、多くが津波によるもので、沿岸部では流出した家屋も多かった。

また、市域面積(556km²)の13.2%(平野部の約30% 73km²)が浸水し、津波の「直撃」は受けなかったものの、平地の住宅地・市街地でも、床上浸水(大規模半壊)となった場合も多かった。これにより、住めなくなった家が多数発生し、膨大な仮設住宅の需要が生じた。

○建物被害	全壊	20,039棟
	半壊	13,048棟
	一部損壊	23,615棟
	合計	56,702棟

※石巻市の被災住家数は、被災前全住家数の76.6%



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲南浜町



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲八幡町



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲湊町

14. ライフラインの被害

○電気

電気は地震の揺れで、すぐに市内全戸および全事業所が停電した。

その後、津波による変電所や電柱などの施設の水没・流出などにより、復旧は困難を極めた。しかし、事業者による復旧作業の結果、内陸・山の手方面から徐々に復旧が進んでいった。



石巻市//東日本大震災アーカイブ宮城

▲湊町 折れた電柱

○水道

水道は、地震の揺れで、すぐに市内全戸が断水した。水道は給水を受ける側の水栓が流出していた場合などは、通水できないことから、電気よりも復旧に時間を要した。

震災前の給水戸数は、60,661戸であった。

平成23年(2011)3月21日までに蛇田・河北・桃生の一部が復旧し、以後、内陸・山の手から復旧が進み、平成23年(2011)4月6日までに39,172戸となったが、平成23年(2011)4月7日の余震により、再び断水となり、平成23年(2011)4月11日時点では復旧済みが 26,636 戸となり、再通水となったのは平成23年(2011)4月15日ごろであった。その後は、順次復旧が進み、被害の大きかった地域を除き、おおむね断水が解消したのは、平成23年(2011)6月上旬、水道管の復旧(管路修繕)が終了したのは平成23年(2011)7月31日であった。

○下水道

下水道は、基本的には、地下施設であり、一般家庭からの排水は、流すことができた。ただし、132.4kmの污水管が被害を受けた。

また、旧北上川河口に位置している県石巻東部浄化センターが津波の直撃を受け、施設に大きな被害が発生した。

応急の処理で対応した。特に、上流部の下水について「真野川仮設沈殿池」を設置し、対応した。(190ページ参照)



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲門脇雨水排水ポンプ場



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲東部浄化センター

○ガス

都市ガスは、本社および製造工場が津波の直撃を受け、全戸供給停止(12,755戸)した。事業者などによる復旧の結果、平成23年(2011)3月23日に移動式ガス発生装置で石巻赤十字病院に部分供給を開始し、平成23年(2011)4月10日から順次復旧が進み、平成23年(2011)5月中旬までに被害の大きかった地域を除き復旧が終了した。9,829戸が復旧した戸数である。

○LPGガス

LPGガスは、津波による流出等がなかった世帯は、多くの場合、使用が可能であり、原則2本のガスボンベが設置されていることから、震災直後は貴重な熱源として利用された。

○電話

固定電話は、事業者の施設が地震・津波により大きな被害を受け、石巻市内の多くの地域で不通となった。その後、順次復旧が進み、平成23年(2011)5月上旬までに復旧した。

携帯電話は、事業者の施設が地震・津波により大きな被害を受け、また、生き残った施設も停電により、使用できなくなったため、ほぼ不通となった。その後、停電の解消、事業者による施設の復旧および移動式の基地局の展開により平成23年(2011)3月下旬から復旧していった。



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲門脇町一丁目



▲明神町石巻ガス前津波被害



石巻市//東日本大震災アーカイブ宮城

▲明神町石巻ガス付近

15. 公共交通の被害

石巻市民の「足」である鉄道・バス・離島航路も大きな被害を受けた。

JR東日本の仙石線・石巻線は大きな被害を受けた。石巻市内の線路・設備について流出はなかったが、地震・津波による被害が生じた。石巻線は、女川駅が流出、仙石線は東松島市の野蒜駅が全壊、石巻線で約70カ所、仙石線で約390カ所の被害があった。

これにより石巻市内の鉄道路線は、すべて運休した。石巻市内の鉄道の一部運転再開は、平成23年(2011)4月17日の石巻線小牛田～前谷地間が最初であった。石巻線が完全復旧したのは、平成27年(2015)3月21日、仙石線が平成27年(2015)5月30日であった。

ミヤコーバスは、地震により石巻営業所が被害を受けたほか、車両の被災、道路の不通により、路線バスの運行はすべて運休した。

仙台～石巻間は、平成23年(2011)3月19日に大橋地区に臨時停留所を設けて再開し、そのほかの路線バスは、平成23年(2011)3月末から徐々に復旧していった。

離島航路は、(株)網地島ラインの旧北上川河口にあった発着所が被害を受け、また、海上を漂うがれきおよび港が使用不可能になったことにより運休した。

石巻工業港の埠頭を臨時の発着所として平成23年(2011)3月24日から石巻・田代島・網地島の航路が1日1往復寄港地限定で再開された。

さらにタクシーも車両が被災したほか、燃料の供給不足により、需要を満たすことが出来なくなった。鉄道・バス・離島航路すべてが震災直後は運休し、タクシーも台数・燃料が不足し、自家用車を失った市民も多く、地震からしばらくは、市内の交通は不便をきたした。



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻駅